

2026.4-6

資産運用状況
Quarterly Report

金属事業企業年金基金

用語の解説

- 修正総合利回り

資産の運用成果を評価する評価基準の一つで、簿価ベースの平均残高利回りである総合利回りの分母に前期末の評価損益および未収収益を加えることによってより時価に近い金額に修正した収益率。

計算式：修正総合利回り(%)=(実現損益+未収収益増減+評価損益増減)／(元本平均残高+前期末未収収益+前期末評価損益)×100

- ベンチマーク

運用成果を評価する際に相対比較の対象となる基準指標のことをいい、市場の動きを代表する指標を用います。

国内債券……NOMURA-BPI総合

野村証券金融工学研究センターが算出・公表する日本の公募債券流通市場全体の投資収益指数で、1983年(昭和58年)12月末を100として指数化したもの。

国内株式……TOPIX(配当込み)

東京証券取引所が東証に上場する国内株の約1700銘柄の時価総額を基に算出する株価指数で、1968年(昭和43年)1月4日を100として算出したもの。

外国債券……FTSE世界国債インデックス(除く日本)

ロンドン証券取引所グループのFTSEラッセルが算出・公表する世界主要国の国債の投資収益指数で、1984年(昭和59年)12月末を100として算出したもの。

外国株式……MSCI-KOKUSAI

モルガン・スタンレー・キャピタル・インターナショナル社(MSCI Inc)が算出・公表する国際的な株価指数で、日本を除く先進国22ヵ国の上場企業の株価指数で構成。

2026年度第1四半期運用状況

4月の株式市場は、米国・イランの停戦合意を受けて早期戦闘終結への期待感が高まったほか、半導体関連銘柄の良好な決算が好感され、内外株式は上昇しました。5月は、米国・イランの戦闘終結に向けた協議進展を背景とした中東情勢の緊張緩和期待の高まりから投資家のリスク選好姿勢が強まったほか、米ハイテク株高や堅調な企業業績への期待も相場を下支えし、国内株、米国株ともに最高値を更新しました。6月は、米国とイランの戦闘終結に向けた暫定合意や原油価格の下落を受けたインフレ懸念の後退から、日経平均株価は70,000万円台に乗せ、NYダウも52,000ドル台に乗せるなど内外株式は続伸しました。

一方、この間の国内10年国債利回りは、原油高によるインフレへの警戒感や、日銀の利上げ観測の高まり、政府の財政拡張への懸念などから上昇基調で推移し、6月末は2.67%まで上昇（債券価格は下落）しました。米10年国債利回りは、原油高によるインフレ懸念や、FRBによる利下げ観測の後退などを背景に小幅ながら上昇しました。

こうした市場環境の下、当基金の第1四半期の収益率はパッシブ資産が6.96%、オルタナティブ資産が4.31%、生保一般勘定を含めた資産全体では6.28%となりました。

	2025年度	2026年度				
		第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度通期
収益率(%)	10.31	6.28				6.28
収益額(千円)	548,527	360,581				360,581
期末運用資産額(千円)	5,788,207	6,085,548				6,085,548

(注) 収益率は修正総合利回り。

1. 2026年度 第1四半期運用環境

【市場の動き（4月～6月）】

国内債券：4月の10年国債利回りは、中東情勢の緊迫化を背景とした原油高によるインフレ懸念の強まりから29年ぶりの水準となる2.5%超に上昇（価格は下落）しました。5月は、日銀の金融正常化観測や政府の補正予算編成を巡る財政拡張懸念などから2.65%まで上昇しました。6月は、日銀の国債買入れの減額計画の停止や、政策金利を1%へ引き上げたものの、月間では概ね横ばいで推移し、月末は2.67%で終わりました。

国内株式：4月は、中東情勢の緊迫化で月初は不安定に推移しましたが、その後は米・イランの停戦期待の高まりを背景に投資家心理の改善から急反発し、中旬以降はAI・半導体関連株が相場を牽引し、日経平均株価は史上最高値を更新しました。5月は、米国半導体関連企業の好決算や米・イランの戦闘早期終結期待等から大幅に上昇しました。6月は、米ハイテク株の上昇を受け、AI・半導体関連銘柄を中心に上昇して始まり、その後、米大手半導体企業の決算や中東情勢の緊迫化を背景に下落する局面もありましたが、月後半にかけては、米・イランの停戦合意により投資家心理が改善し幅広い銘柄が買われたことなどから上昇し、月末の日経平均株価は70,000円台で終わりました。

外国債券：4月の米国10年国債利回りは、原油価格急騰によるインフレ懸念、米・イランの停戦交渉の進展・後退などから4.3%を挟んだレンジ内で推移しました。5月は、原油高によるインフレ圧力の高まりや、市場予想を上回る物価指標などからFRBの利上げが意識されたこと等から小幅に上昇しました。6月は、年内利上げ観測が高まったことやインフレ懸念の後退を背景に概ね横ばいで推移し、月末は4.47%で終わりました。なお、この間の為替は、円/ドルは1ドル＝159.09円から162.53円に、ユーロ/円は1ユーロ＝183.30円から185.81円にそれぞれ円安が進み、外貨建資産に対してプラス寄与となりました。

外国株式：4月の米国株式は、中東情勢の緊迫による原油高とインフレ懸念から月初は横ばいで推移しましたが、その後は米・イランの停戦期待の高まりや堅調な企業決算を背景に上昇に転じました。5月は、中旬までは横ばいで推移し、その後下旬にかけては米・イランの戦闘終結期待から大幅に上昇し、米株主要3指数は揃って最高値更新で月末を迎えました。6月は、米・イランの停戦合意や大型IPOの好調な滑り出しを背景に上昇し、月末のNYダウは高値更新の52,300ドル台で終わりました。

◇参考指標

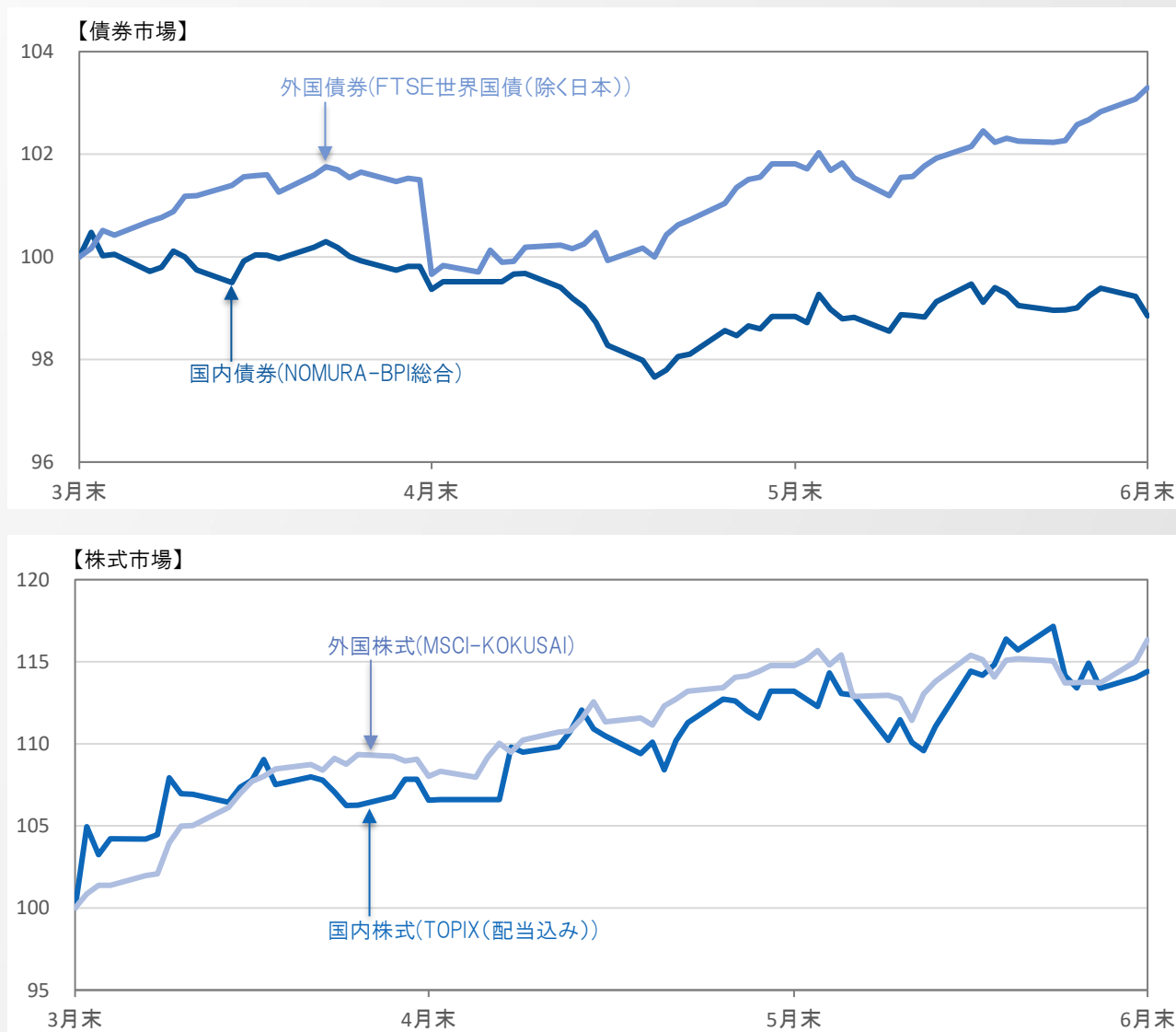
		2026年3月末	2026年4月末	2026年5月末	2026年6月末
国内債券	10年国債利回り (%)	2.35	2.52	2.65	2.67
	日経平均株価 (円)	51,063.72	59,284.92	66,329.50	70,062.32
外国債券	米国10年国債利回り (%)	4.32	4.37	4.44	4.47
	ドイツ10年国債利回り (%)	3.00	3.04	2.94	2.86
外国株式	NYダウ (ドル)	46,341.51	49,652.14	51,032.46	52,319.20
	ドイツDAX (ポイント)	22,680.04	24,292.38	25,104.70	24,995.81
為替	ドル/円 (円)	159.09	156.71	159.19	162.53
	ユーロ/円 (円)	183.30	183.82	185.77	185.81

◇ベンチマーク収益率

	2026年4月～6月
国内債券 NOMURA-BPI総合	-1.15 %
国内株式 TOPIX(配当込み)	14.40 %
外国債券 FTSE世界国債(除く日本)	3.30 % (0.53 %)
外国株式 MSCI-KOKUSAI	16.34 %

(注)FTSE世界国債の下段 () 内は、円ヘッジベースの収益率

市場ベンチマークの推移(2026年度 第1四半期) 2026年3月末=100とした市場の動き



2. ファンド別資産クラス別収益率・収益額の状況

(1) パッシブ資産

	2025年度	2026年度				
		第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度通期
収益率(%)	11.73	6.96				6.96
国内債券	-5.30	-1.15				-1.15
国内株式	34.75	14.41				14.41
外国債券	12.44	3.33				3.33
ヘッジ外債	-0.23	0.61				0.61
外国株式	26.98	16.31				16.31
短期資産	0.52	0.18				0.18

	2025年度	2026年度				
		第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度通期
収益額(千円)	526,265	340,294				340,294
国内債券	-11,872	-2,436				-2,436
国内株式	200,247	107,415				107,415
外国債券	62,833	18,882				18,882
ヘッジ外債	-4,719	12,640				12,640
外国株式	279,403	203,722				203,722
短期資産	375	72				72

(2) オルタナティブ資産

	2025年度	2026年度				
		第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度通期
収益率(%)	3.49	4.31				4.31
第一生命	0.03	1.91				1.91
りそな銀行	6.77	6.44				6.44

	2025年度	2026年度				
		第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度通期
収益額(千円)	14,738	18,777				18,777
第一生命	62	3,902				3,902
りそな銀行	14,676	14,875				14,875

(参考) 第一生命：マルチアセット（第2総合口），りそな銀行：マルチアセット（総合口N）

(3) 一般勘定

	2025年度	2026年度				
		第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度通期
収益率(%)	1.83	0.36				0.36

	2025年度	2026年度				
		第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度通期
収益額(千円)	7,524	1,510				1,510

(参考) 日本生命：ニッセイ一般勘定プラス

3. 運用資産額・構成割合

(1) パッシブ資産

	資産額 (千円)	構成割合	基本ポートフォリオ		乖 離
			中心値	許容乖離幅	
国内債券	209,865	4.0%	5%	±2%	-1.0
国内株式	852,940	16.4%	13%	±3%	+3.4
外国債券	586,682	11.3%	11%	±3%	+0.3
ヘッジ外債	2,091,259	40.1%	45%	±4%	-4.9
外国株式	1,452,567	27.9%	23%	±4%	+4.9
短期資産	18,899	0.4%	3%	±3%	-2.6
合 計	5,212,212	100.0%	100.0%		—

(注) 上記数値は四捨五入のため、各数値の合算は合計値と必ずしも一致しません。

(2) オルタナティブ資産

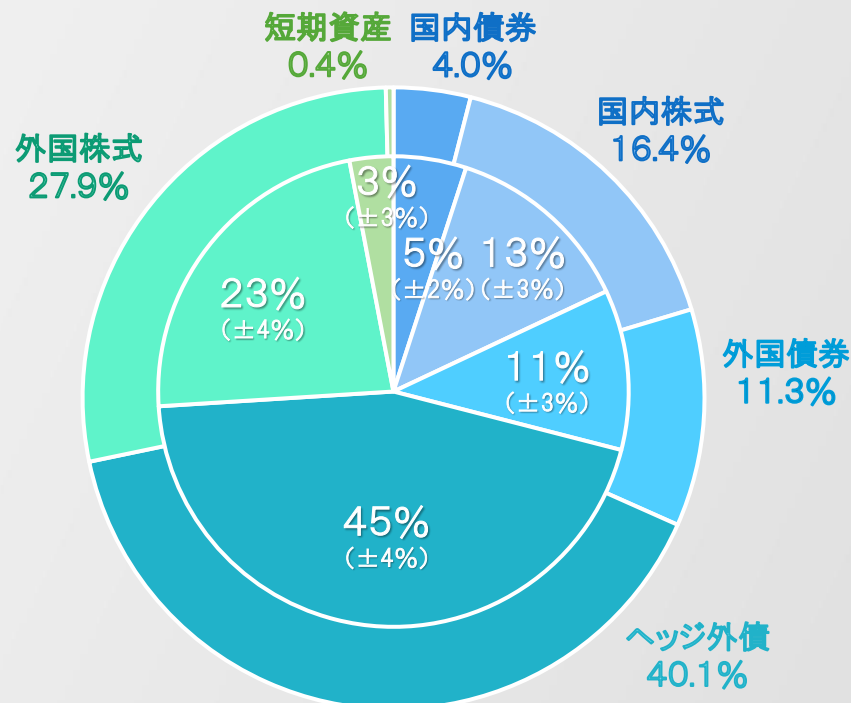
	資産額(千円)
第一生命	208,209
りそな銀行	245,870
合 計	454,078

(3) 一般勘定

	資産額(千円)
日本生命	419,257

(4) 資産全体

	資産額(千円)
パッシブ資産	5,212,212
オルタナティブ資産	454,078
一般勘定	419,257
合 計	6,085,548



内側：基本ポートフォリオ（カッコ内は許容乖離幅）
外側：2026年6月30日時点